

第5回 航空機運航のDX 推進に向けた検討会 議事概要(案)

日時: 令和3年12月15日(水)15:00 ~ 16:30 Web 会議

<1.開会 交通管制部長挨拶>

今回はこれまで頂戴したご意見をサマライズ報告するとともに、検討会構成員の皆さんからデジタル情報の今後の活用等について発表をお願いしたい。

<2.議事>

①前回会議までのフォローアップ

資料1、資料2、資料3を事務局から説明

- 相手空港の状況は情報として必要。例えば他空港で滑走路の閉鎖や雷等でハンドリングが停止した場合に、そういった情報がリアルタイムに入って来ない。そのような情報があると、空港運用、特にスポット運用や、二次交通との情報連携が非常に助かる。
- 提供データは生データから、加工済みデータまで幅広く考えられる。また経済価値の高いデータも混ざって出てくる。これらデータの扱いは考慮されているのか。
⇒皆様のご意見も頂戴しながら検討することと思う。
- 滑走路閉鎖などは NOTAM である程度把握できるが、分かるのはオープン見込みの時間だけ。プロセスや状況が分からない。これらも共有して頂ければ空港側としても今後の運航見通しを立てられるため、助かる。

②航空機運航に係るデジタル情報の今後の活用

資料4を三愛石油株式会社、資料5を株式会社南紀白浜エアポートから説明。

- 国管理空港と上下一体で運営するコンセッション型の空港がある。それぞれにシステムを組むのは非効率。SWIM を経由することによってシステムが一本化される。事業者としては競争領域ではない部分にお金を投じなくて済むのは非常に良い。加えて我々はシステムでスポット番号を生成し、画面提供することは出来ているが、それをデータで送ることはできていない。SWIM を経由して配信できると、データ活用の幅が広がる。
- 一部空港においては自社システムと給油会社システムを接続し、それ以外の空港においては自社端末を給油会社に設置している。また出発・到着情報に関しても別端末を設置している。これを SWIM でできるようになれば、端末設置は不要になり、コスト、メンテナンスの負担はなくなる。
- 外国機のデータやストックデータも活用していきたい。航空会社毎・給油会社毎にシステムを構築するのはお互いに負担がかかる。その点でも統合的にシステムを結びつける SWIM というプラットフォームはより多くの効果をより少ない負担、投資で実現できると思う。

⇒給油以外でも、同じようなケースが他にもあるのではないか。

⇒機内食製造の事業者も、表示端末の画面を見ることはできる。ただし、そのシステムに自社システムを連携させるのは難しい。

○システムメーカーとしては、エンドユーザー視点で一元的なシステムを作っていきたい。航空機運航データだけではなく、二次交通との連携は重要だと認識している。

○航空便からバスに乗る人があらかじめ分かるとバス会社に待ってもらうこともできるが、なかなか方法が難しい。航空会社は予約された乗客情報をお持ちなので、二次交通と予約システムや乗客情報の連携ができれば解決すると期待している。

○羽田ではコロナ前に150ぐらいのバス網があり供給過多な状態であった。2年前、バスチケットの自販機を相当数増やしたが、バス会社が2社に分かれている関係で、チケット購入に時間ロスが生じて間に合わないというトラブルも散見されることが課題。事業者に関係なく、一括決済できるシステム構築があると、空港からスムーズな移動ができる。

○24時間空港であるという理由から、コロナ前は空港側も費用を負担して、バス会社と連携して深夜バスを走らせていた。大規模空港側もアクセスは課題意識を持っており、一緒に進めていければと思う。

○各事業者から出すデータは、共通のガイドライン等を設定して公平に出す必要がある。顧客情報があれば有意義だという話は理解できるが、運送に関わる会社が顧客情報を出すのは相当ハードルが高い。利用者自身が情報提供の利点を感じて、自ら情報提供できるようになる仕組みが作られると良い。

③今後の進め方について

■航空機運航のDX推進に向けた検討会の今後の進め方(予定)(資料6)
質疑は特になし。

<3.閉会 森川座長>

色々ご意見等頂き有難うございました。是非多くの方々の知見を踏まえて進めて行ければと思っております。来年も引き続き議論の方をお願いできればと思います。

以上